

アコーディアの筆頭株主にファンド会社が急浮上
旧村上ファンド系レノ、共同で13・75%を保有と
投資目的は経営陣への助言等、TOBにも影響か

PGMからTOBをかけられている渦中の(株)アコーディア・ゴルフ(東京都港区)の筆頭株主に、旧・村上ファンド系の投資グループが浮上したことがわかった。

その投資グループは、(株)レノ(三浦恵美代表取締役、東京都港区)及び(株)C&I Holdings、合同会社南青山不動産の3社グループで、1月7日付けで5%以上保有の取得者に義務付けられている大量保有報告書を共同で提出し、アコーディアの株式を3社計で14万4915株、保有割合で13・75%取得していることを明らかにしたもの。

PGMによるTOBは昨年11月16日から始まったが、(株)レノのグループは11月19日から市場でアコーディアの株式を取得しはじめ、アコーディアによる配当政策やTOBに対する反対意見が公表された12月3日を境に取得株数も増加、12月25日以降はさらに取得数を増やし、1月4日にも買い増した。一部市場外での取得や処分もあったが、ほとんど市場で取得した。本社及び事務上の連絡先は(株)レノで、保有目的は「投資及び状況に応じて経営陣への助言、重要提案行為等を行うこと」と報告書に記載してい

るが、「開示した内容通りで、その他取材には応じていない」とし今後の投資行動については明らかにしていない。

㈱レノのグループは、旧・村上ファンド出身者が多いとされる機関投資家。昨年10月にSBIホールディングス㈱の筆頭株主ともなった。旧・村上ファンドといえれば数年前、TBSや阪神といった有名企業のTOBなど企業買収に度々、関与し話題となったが、今回のアコーディア株式の取得は「投資目的」とみられ、アコーディアやPGMにもこれまで「コンタクトはない」という。

そのPGMでは、「8万1000円のTOB価格は変更しない。マネーゲームには巻き込まれたくない」と表明し、価格を上げてまで取引する意向はない模様。もともと、今後のレノグループの行動(株式処分やアコーディアへの経営助言)次第では、TOBや経営統合交渉等にも影響を与えそうだ。PGMが目指す20〜50・1%のTOBは成立するとする観測が多かったものの、アコーディアの株価はレノの報告以降もTOB価格近くで推移しており、「応募は過半数には届かない」とする見方も増えたようだ。

ちなみに、アコーディアの昨年9月末時点の大株主は日本トラスティ・サービス信託銀行(株)信託口6・2%、日本マスタートラスト信託銀行(株)信託口3・7%、石原昌幸氏(PGMH親会社の㈱平和のオーナー)3・1%等で、同

末日以降大量保有を届け出た投資家はなく、レノグループの13・75%が筆頭となっている。